



エスディージーズ トッランナーがSDGsを語る! 持続可能なまちづくりへ 第4回

宮城県議会 **高橋宗也** 議員



国連が採択したSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取り組みを推進していくために、政府は優れた取組を提案した全国29自治体を「SDGs未来都市」に選定。宮城県からは唯一、東松島市が選ばれました。

東松島市では、今後、各省庁の支援施策などを活用し、教育、エネルギー、生涯現役、経済循環、市民協働を中心に「持続可能なまちづくり」を目指し、本市の知名度アップにもつなげていく考えです。

ここでは、市を牽引する様々な分野のトッランナーの方々に、「SDGs」に対するの期待感や、持続可能なまちづくりへの思いをインタビュー。第4回目の今回は、元東松島市復興政策部長で、東松島から選出の県議会議員、高橋宗也さんに「SDGs」を語っていただきました。



■問 SDGs未来都市推進室
☎内線1249

インタビュー

◎SDGsでは、持続可能なまちづくりが求められていますが、「持続可能な社会、まち」を創造していくために必要なことは何だと考えますか。

▲まだ多数の皆さんにとっては「SDGsって何?」という段階だと思います。まずはSDGsに対する理解を市民全員で深めていくことが必要だと思います。持続可能なまちづくりに向けては、社会環境や自然環境もセットで考えつつ歩んでいく必要があります。やはり東松島市では、震災復興、防災が優先事項です。少子高齢化対策にも目を向ける必要があるでしょう。これらの課題解決に向けてSDGsは非常に参考になると思います。

◎市がSDGsに選定された意義やそれに伴う可能性についてどのように感じますか。

▲2030年になったとき、今の社会はどのような構造になっているか考えましょう。2025年に団塊の世代が後期高齢者となります。そこからさらに5年後、人口減少社会はさらに加速し必然と『多死社会』が訪れます。その中で、なお、持続可能な地域づくりを進めていくためにはどうしたらいいか。それは市民一人ひとりの力と地域の共助の力にかかってくるころが大きくなると思います。今よりもっと広い視野で地域を見つめ、グローバルな考え方ができるようになる必要があります。

◎SDGsでは、子ども、若者、高齢者の人材育成をテーマにしていますが、市民の皆さんへのメッセージをお願いします。

▲「大きな目標をもって行動していくこと」そのものがSDGsの理念です。自分のためだけでなく、人のため、人間は頑張れるものです。SDGsは社会をより良くしていくための一つのツールと考えてください。小学生、中学生、高校生、大学生の皆さんには、ぜひグローバルなものの考え方を養っていただきたいです。東松島市は、震災後国内外のさまざまな人々から助けられ、支援を受けました。その感謝の気持ちを忘れず、復興した地域の姿を見せることが一番の恩返しにつながります。そのためにも、「グローバル」というキーワードを胸にとどめてほしいですね。

インタビューの全文は、

東松島市 SDGs

検索